

令和5年度

授業改善推進プラン
資料

北区立神谷中学校

目 次

1	北区基礎基本定着度調査（4月14日実施）調査結果の内容別・観点別の分析	
（1）	1年生〔国語・社会・数学（算数）・理科〕	2
（2）	2年生〔国語・社会・数学・理科・英語〕	3
（3）	3年生〔国語・社会・数学・理科・英語〕	4
2	授業改善推進プラン〔5教科〕	5～9
3	授業改善推進プラン〔実技教科〕	10～11

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
国語	平均正答率は64.3ポイントでした。これは、全国平均を5.1ポイント上回り、また区の平均も2.5ポイント上回る結果となりました。内容8項目別でも、すべての項目で上回り、特に「漢字を書く」が9.8ポイント、「文学的な文章の内容を読み取る」が6.7ポイントと大きく上回りました。ただ、別途「情報」についてのみを抽出してみると、全国平均よりも5.4ポイント、区の平均よりも6.7ポイント下回りました。	国語の三つの観点別でも、全てにおいて全国平均及び区の平均よりも上回っています。特に「知識・技能」は全国平均を5.1ポイント、区の平均よりも3.3ポイントと大きく上回りました。	内容「漢字を書く」やその他の基礎的な語句等の問題の正答率の高さが観点「知識・技能」が上回った要因と考えられます。 また、「情報」（情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って、文章を整える）については、各内容項目に混在しています。そのため、各内容項目への影響は少ないです。
社会	平均正答率は、全国平均を2.5ポイント、区平均を3.0ポイント上回る結果となりました。内容別では、7つある中で6つの内容で全国平均を上回っています。「安土桃山時代、江戸時代」についてのみ、5.4ポイント下回る結果となりました。	「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の2観点で全国、区平均を上回りました。特に、「知識・技能」については平均より4.8ポイント高い結果となりました。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的におおむね良好です。「安土桃山時代、江戸時代」が不十分な単元として挙げられ、今後の課題です。
数学（算数）	平均正答率は、全国平均を8.4ポイント、区平均を3.7ポイント上回る結果となりました。内容別では、11個ある中で10個の内容で全国平均より上回りました。「いろいろなグラフの読み取り」のみ3.3ポイント低い結果となりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てで全国、区平均を上回りました。また、全ての観点において平均より10ポイント近く高い結果となりました。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値もほぼ全て上回っているため、小学生段階の内容はよく身に付いていると分析します。唯一「いろいろなグラフの読み取り」において平均を下回る結果だったため今後の課題です。
理科	平均正答率は、全国平均を2.5ポイント上回り、区の平均を4.9ポイント上回りました。内容別では、「物の燃え方」、「植物のつくりとはたらき」「生物と環境」「てこのはたらき」「電気の利用」の分野で区の平均を上回りました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てで全国、区平均を上回りました。知識・技能も定着しているため、思考・判断・表現にも繋がっていると思われます。	実験や観察したことや既習事項の定着ができています。実験・観察の結果を考察する力や既習事項を応用する力に十分にありまます。科学的に考える力・思考力をさらに身に付けさせるようにすることが課題です。

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
国語	平均正答率は、全国平均並びに「活用」以外の区平均を上回っています。内容8項目別では「漢字を読む」、「文法・語句に関する事項」、「説明的な文章を読み取る」、「文学的な文章を読み取る」、「文章を書く」の5項目が全国・区を上回りました。「漢字を書く」の項目は、全国と区の平均を下回っていました。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てにおいて全国平均、区平均をともに上回っていました。	「知識・技能」の観点は区平均を上回っているものの、内容で見た場合には「漢字を書く」の正答率が低いことが目立ちます。この調査で出題されているのは小学校での既習漢字であることから、小学校の配当漢字の習得状況を確認し、復習・再度定着を図ることが必要です。
社会	平均正答率は、全国平均を3.1ポイント、区平均を1.2ポイント下回る結果となりました。内容別では、7つある中で6つの内容で全国平均を下回っています。「飛鳥時代～平安時代」についてのみ、0.8ポイント上回る結果となりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てで全国、区平均を下回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が低くなっています。特に、「地理」の分野で課題があり、その中でも「世界の諸地域」と「世界の姿」が不十分な単元として挙げられます。今後の課題です。
数学	平均正答率は、全国平均を11.9ポイント、区平均を7.2ポイント上回る結果となりました。内容別では、7つの内容全てにおいて全国平均を上回りました。特に「文字と式」「1次方程式」では、10ポイント以上高い結果となりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点すべてで全国、区平均を上回りました。また、全ての観点において平均より10ポイント以上高い結果となりました。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、確実に数学的な力が身に付けていると分析します。「比例・反比例」においては、区平均を少し上回る結果となったため、他の内容と比較すると今後の課題です。
理科	平均正答率は、全国平均を7.8ポイント下回りました。内容別では、「気体の性質」と「音の性質」の分野で全国と区の平均を上回りましたが、「火山」の分野で全国平均を16.1ポイントも下回っています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の全てで、全国・区の平均を下回っています。特に知識・技能の観点においては全国平均を10.3ポイント下回っています。	既習事項の定着が不十分であり、復習や問題演習の不足により知識・技能の習得につながっていないと考えられます。現在学習している分野だけでなく、既習事項の繰り返しや演習を行うことが今後の課題です。
英語	平均正答率は、全国平均を4.4ポイント上回る一方、区平均を1.1ポイント下回る結果となりました。内容別では、リスニング3分野については全国平均を上回りましたが、「語形・語法の知識・理解」については全国平均を5.3ポイント下回るといった結果となりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点すべてで全国平均を上回る結果となりました。一方、「主体的に学習に取り組む態度」については区平均を0.3ポイント下回る結果となりました。	リスニング力が確実に身に付いており、授業内での音読等の機会がリスニング力の定着に寄与したことが考えられます。その一方、長文読解に対する苦手意識が顕著であるため、授業内で英文を繰り返し読む練習をすることにより、長文読解の意欲を高める必要があると考えています。

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
国語	平均正答率は72.2ポイントで、全国平均よりも5.5ポイント、区の平均よりも4.8ポイント上回りました。特に、「文章を書く」は16.5ポイント、「文法・語句に関する事項」は8.4ポイントと大きく上回りました。しかし、「ちらしを書く」は8.7ポイントと大きく下回りました。情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って、文章を整えていることが苦手ということがわかりました。	国語の三つの観点の全てで、全国平均及び区の平均を上回りました。特に、「主体的に学習に取り組む態度」が、10.6ポイントと大きく上回りました。	内容「文章を書く」の正答率の高さや各問題の無回答率の低さが、観点「主体的に学習に取り組む態度」の高さに影響しています。内容「ちらしを書く」は、そのうちの一部の問題のみが正答率が低かったことから、全体への影響は少なかったです。また、内容「漢字を読む」は正答率が高いですが、内容「漢字を書く」が伸び悩んだので、観点「知識・技能」も大きく上回るにはいたりませんでした。
社会	平均正答率は、全国平均を3.3ポイント下回りました。区平均よりも、0.7ポイント下回る結果となりました。内容別では、7つの項目中6項目で全国平均よりも低い結果となりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てで全国平均を下回りました。この3観点は区平均と比較すると、0.2～1.2ポイントを下回る結果となりました。	「地理」の分野の「地域調査の手法」の定着が低くなっています。地図の読み取りが、今後の課題です。
数学	平均正答率は、全国平均を10.3ポイント、区平均を6.7ポイント上回る結果となりました。内容別では、7つの項目の中で、6つの項目で全国平均よりも高い結果となりました。その中でも4つの項目で平均よりも10ポイント以上高く、「図形の性質」については、2.3ポイント低い結果となりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点すべてで全国、区平均を上回りました。また、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」の観点において平均より10ポイント以上高い結果となりました。	「数と式」「関数」「データの活用」の分野で基礎的・基本的な学力が定着していると分析します。その一方で、「図形」における知識・技能の観点を向上させることが今後の課題です。
理科	平均正答率は、全国平均を0.2ポイント下回り、区の平均も3.1ポイント上回りました。内容別では、「電流の性質」・「物質の成り立ち」の分野で全国平均を上回りましたが、「日本の気象」の分野で全国平均を14.9ポイント下回りました。	「思考・判断・表現」の観点で、全国・区の平均とも上回っています。「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」の観点で、全国・区の平均をわずかに下回っています。	「知識・技能」として学習したことが日々の生活と関連付けることができていないことで学習目的を明確にもてていません。そのため、関連付ける説明や実験を活用することで「主体的に学習に取り組む態度」を育むことが課題です。
英語	平均正答率は、区と全国の正答率を上回っているため、良好な状況です。しかし、読み取りの正答率が区平均を0.5ポイント下回っています。読み取りについては大意をつかむことはできますが、問いの意図するところを読み取ることができていません。	知識・技能は正答率が区平均より1.2ポイント上回りましたが、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」が若干下回りました。特に英文の読み取り問題と英作文の問題が低い結果となりました。	語彙を増やすことに力を入れてきたので、読み取りについては大意をつかむだけでなく、細かなところを読み取ることができるよう、ポイントをつかむ指導をしていきます。またライティングの時間を今後増やして、表現の能力を伸ばしていくことが今後の課題です。

授業改善推進プラン（5教科、各学年）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画	
国語	1年	今回の調査では、全国平均も区の平均も上回っており、全体的に小学校の授業で学習した内容が定着していることが伺えます。大きく上回っていた観点「知識・技能」にあたる漢字や文法、古典は、小学校での既習事項を確認しながら、読み慣れることや演習問題を解き、理解を深めていきます。また、「情報」については「情報の扱い方」を課題として、情報と情報との関係について理解し、文章の情報が整理できるようにします。	各単元や教材ごとに小学校での既習事項とその内容を確認していきます。その中で、継続的な学習が必要な漢字の学習は定期的な小テストやコンテストを設定し、その結果を明示します。音読が効果的な古典では、声に出すとともに時代背景も写真や映像等で理解を深めます。「情報の扱い方」では、説明的な文章において、書かれている内容から推測できることを挙げたり内容の要約から情報のつながりを理解できるようにしたりします。また、北区GIGAスクール構想に基づく、一人1台端末「きたコン」を効果的に活用していきます。例えば、文章記述では、構成の段階から清書、読み合い、相互評価まで使用します。発表ではプレゼンテーションソフトの使用で個別最適化した学びとします。	一人1台端末「きたコン」のスタディサプリやeライブラリを活用することで、個に応じた補充的かつ発展的な問題演習を行っていきます。加えて、文章記述では、模範解答を提示したり他の生徒の解答を共有したりすることで、書きやすくなるようにします。また、卒業生が中学1年生で書いた内容を指導の際に提示して、書くときの参考にさせることで、意欲を高められるようにします。
	2年	区の平均正答率との比較で基礎は3ポイント上回っていますが、活用は1ポイント下回っています。活用問題で正答率が低いのは話し合いの内容を聞き取り、それに対する自分の考えや根拠とともに記述する問題でした。自分の意見をもつことはできる生徒が多いですが、その根拠を明確にすることを意識させることを指導していきます。漢字学習は新出漢字とともに小学校での既習漢字の復習も継続的に行い、定着を図ります。	生徒には意見をもつとともに根拠を明確にする重要性を認識させる必要があります。例えば、根拠を整理するための資料を提供し、それを活用して意見を構築する練習を行わせる等が考えられます。教師からは具体的な指摘や質問を積極的に行い、生徒の思考を促進することで、根拠をより明確に表現する力を育みます。漢字学習については定期的な漢字小テストによって生徒の理解度を確認し、不安な部分を補強します。	グループディスカッションやペアワークによる対話練習を通じて、自分の意見と根拠を明確に表現できるよう指導します。教員からは具体的なフィードバックを行い、生徒の表現力を高めます。定期的な作文課題でも根拠を明確に表現するよう指導します。漢字学習では、定期的な小テストに加えて短文作りなど文脈の中で正しい漢字を実践的に使う練習を通して定着を図るとともに、継続的に学習課題を設定して、定着を促進します。
	3年	今回の調査では、全国平均も区の平均も上回っており、全体的に前年度の授業で学習した内容が定着していることが伺えます。大きく上回っていた内容「文章を書く」は今後も書く意欲を高める工夫を継続していきます。また、大きく下回った内容「ちらしを書く」は、説明的な文章等を取り扱う際に、必要な情報と情報を組み合わせたり整理したりする課題を設定し、改善します。	北区GIGAスクール構想に基づく、一人1台端末「きたコン」を効果的に活用していきます。例えば、文章記述では、昨年同様、構成から清書作品を共有しての相互評価までで使用します。模範解答例も複数用意し「これなら書ける」という書くときの意欲を高めます。また、意見の根拠となる事柄をどう構成に組み込むのかを入試問題と組み合わせさせて考えさせます。情報を整理して組み合わせる課題設定では、説明的な文章において、内容の要約だけではなく、文章の相関図や図化をさせることによって視覚的に把握することができるようにします。	一人1台端末「きたコン」のスタディサプリやeライブラリを活用することで、個に応じた補充的かつ発展的な問題演習を行っていきます。その中でも印刷が効果的である内容に関してはプリントにして、配布もします。学習プリントでは、過年度の入試問題やそれに類似した問題を取り入れます。直前に学習した内容と近い演習をできるようにします。加えて、文章記述では、模範解答を提示したり他生徒の解答を共有したりすることで、書きやすくなるようにします。昨年に続き、副教材「基礎をきずく」は、各教科書課題の学習後に配布し実施をしますが、定期考査前には見返させて、学習の定着を図ります。

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
社会	1年	全国・区の両者とも平均を上回り、小学校の内容が定着しています。今回の調査で、「歴史」的な内容のポイントが他の内容よりも低くなっています。授業でも、「歴史」的な内容に苦手意識をもっています。特に、時代の違いや人物が多く出てくると、苦手意識をもっています。どの時代の内容・人物かを区別できようにする必要があります。	資料をもとに調べることが得意であるため、歴史的分野での授業で、作業的なものを取り入れます。人物について、調べ、まとめることを授業の中で実施していきます。	「知識・技能」の知識の定着を図るために、定期考査前に社会科コンテスト（一問一答形式）を実施します。（1学期中間考査前に実施済み）また、学習用PC内の「eライブラリ」や「スタディサプリ」を活用して、基礎基本の定着を図り、自分の学習したい内容を選択しながら進めるようにしています。
	2年	授業でも、文章で説明をすることと地図を活用したものに苦手意識をもっています。文章での説明の仕方が未定着で、授業の中で、説明をする作業を取り入れています。どのように書けば良いか、わからないということが大きいと思います。地図では、主要な国の位置が定着していません。	資料をもとに作業をすることは得意です。この作業に地図を活用したものを取り入れて、改善を図っていきます。また、文章で説明をする問題に対しては、文書を書くことを授業で取り入れていきます。加えて、資料の比較をして、説明をする問題等を、紙に書かせいきます。社会科コンテスト等で、国や都市の位置の定着を図っていきます。	資料を活用するために、基礎的な知識が定着していることが必要になるため、定期考査前に社会科コンテスト（一問一答形式）を実施します。（1学期中間考査前に実施済み）また、学習用PC内の「eライブラリ」や「スタディサプリ」を活用して、基礎基本の定着を図り、自分の学習したい内容を選択しながら進めるようにしています。
	3年	積極的に授業に参加していますが、近現代史に入り、興味・関心が低くなっています。また、人物把握だけでなく、国と国との関わりに関する部分など、複雑になり、さらに苦手意識をもっています。イラストや資料を活用して授業を展開していますが、人物と内容が一致していません。	興味・関心もてるように、授業の導入の部分の改善を行なっていきます。映像やイラストを使用して工夫をします。また、今後、公民的分野で地図の活用ができる内容のところで、地図を用いて授業を行なっていきます。	1・2年生の復習のために、社会科コンテストを長期休業後に実施していきます。（すでにゴールデンウィーク後に実施し、夏休み明けに実施予定。）また、学習用PC内の「eライブラリ」や「スタディサプリ」を活用して、基礎基本の定着を図り、自分の学習したい内容を選択しながら進めるようにしています。

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
数 学	1 年	平均正答率は、全国平均を8.4ポイント、区平均を5.7ポイント上回る結果となりました。細かく見ていくと「いろいろなグラフの読み取り」が苦手分野として挙げられます。棒グラフは、量の差、円グラフは割合、折れ線グラフは、変化の推移といったように、それぞれのグラフの特徴を理解し、考察し活用する力を育てていく必要があります。	どの単元においても、まずは生徒一人一人がどこまで基礎知識が身に付いているのかを把握し、必要に応じて復習問題を行い、定着を図ります。その上で自力解決の時間を多くとり、正解しているかどうかより、どう考えて答えを導いたかを重視し、授業を展開します。「データの活用」の単元では、まずそれぞれのグラフが、何を可視化しようとしているのかを振り返り基礎の定着を図ります。その上で、データから予測できる事柄を考えさせ、解決するにはどうすればよいかを説明できることを目標に授業を行います。	基礎知識の定着を図るために、定期的に小テストを実施します。またきたコンを用いて「eライブラリ」や「スタディサプリ」を活用し、基礎基本の定着を図り、さらに自分の学習したい内容を選択しながら進めることで補充および発展的な学習を、各自で行うことができるようにします。標準クラスでは問題解決型学習を積極的に取り入れながら発展的な内容も補充します。基礎クラスでは基礎・基本の定着の徹底を目指し、つまずきのある生徒には、講師の先生と協力し個別に指導を行います。
	2 年	平均正答率は、全国平均を11.9ポイント、区平均を7.2ポイント上回る結果となりました。この結果から、昨年度からの指導方法を今後も継続させていくことが良いと考えます。しかし、他の内容に比べると「比例・反比例」においては、区平均を少し上回る結果となったため、課題として挙げられます。表・式・グラフの対応や、関数的な見方・考え方を育む授業が必要です。	毎授業の導入に授業内容と関連した復習問題を行い、生徒一人一人のつまずきを把握するとともに、基礎学力の定着を図るようにします。習熟度別少人数授業の特性を活かし、クラスのレベルにあった問題を取り入れることで学習意欲の向上につなげます。「関数」の単元においては、問題に応じてICT機器を効果的に活用し、グラフを視覚的に捉えて関数的な見方・考え方を育みます。また、答えに至るまでの過程を重視する問題(説明や記述式問題)を取り組ませることで、「わかる」から「できる」を目標に、授業を展開します。	一人1台端末きたコンを用いて「eライブラリ」や「スタディサプリ」を活用し、基礎基本の定着を図り、さらに自分の学習したい内容を選択しながら進めることで補充および発展的な学習を、各自で行うことができるようにします。また、その結果をもとにフォローアップ学習で苦手を克服します。標準クラスでは問題解決型学習を積極的に取り入れながら発展的な内容も補充します。基礎クラスでは基礎・基本の定着の徹底を目指し、放課後補習教室を実施し、反復練習に力を入れつつ、つまずきのある生徒に対しては個別指導を行います。
	3 年	平均正答率は、全国平均を10.3ポイント、区平均を6.7ポイント上回る結果となりました。苦手分野としては「図形の性質」が挙げられます。平均から2.3ポイント低い結果となりました。平面図形における様々な特徴、性質などの「知識・技能」の定着がまだまだ図れていないと考えます。授業では、図形を多面的に考察させて分類したり、問題解決に活用したりする力を付けていくことが必要です。	「思考・判断・表現」の観点の向上を図る授業を展開します。どの単元においても「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし、筋道を立てて説明し伝え合う活動」を行います。お互いに伝え合う活動を通して、自分の考えを深め、問題解決の糸口にしたり、様々な解法に触れることを大事にさせたりします。特に「図形」の単元では、まず既習内容を振り返りながら、基礎学力の定着を図ります。必要に応じてICT機器と実物立体模型等を使い分けて活用し、複雑な図形・立体を多面的に捉えさせていきます。	一人1台端末きたコンを用いて「eライブラリ」や「スタディサプリ」を活用し、基礎基本の定着を図り、さらに自分の学習したい内容を選択しながら進めることで補充および発展的な学習を、各自で行うことができるようにします。また、習熟度別少人数授業の特性を活かし、クラスのレベルにあった問題をプリント作成し、つまずきのある生徒には振り返り学習を、基礎的・基本的な学力が身に付いている生徒にはより発展的な学習が取り組める環境を整えます。

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
理科	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項・既習事項は、定着しています。今回の問題で、内容別正答率の低かった分野の強化を図るとともに、問題練習を徹底して行うこと、復習のための家庭学習習慣の定着を図る必要があります。 ・既習事項・実験や観察の結果を考察し、活用・応用していく力を育て、科学的に考える力を育成します。 ・実際に実験や観察をすることが困難な分野は、写真・ビデオ・図などの教材を利用して視覚的に訴える授業作りをしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事物・材料を教材化し、できるだけ実物を提示することで、生徒に興味・関心をもたせるような授業を展開します。観察実験の困難な分野は、写真・ビデオ等を利用します。 ・単元の終わりには、問題演習を行ったり課題を出したりし、家庭学習の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 ・夏季休業中の課題として、それまでの学習内容の問題を出題することで、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにしています。 ・授業内容・実験の結果について、班で話し合う機会等を増やし、応用力・考える力を養います。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項・既習事項の定着が不十分であるため、内容別正答率の低かった分野の強化を図るとともに、問題練習を徹底して行うこと、復習のための家庭学習習慣の定着を図る必要があります。 ・いくつかの単位があるものは、単位の換算方法も理解させることが必要です。 ・実際に実験や観察をすることが困難な分野は、写真・ビデオ・図などの教材を利用して視覚的に訴える授業作りをしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着のための確認、復習の時間をとり家庭学習の課題を出します。定着の度合いをみるための小テストを行い、結果が不十分な者に対しては再テストを行います。 ・考える力を付けるために、細かくステップを分けて発問する工夫をします。グループで相談、教え合いができる機会を設けます。できるだけ実物を用意し、また、身近な教材の使用に心がけ、生徒の興味・関心を喚起します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 ・夏季休業中の課題として、それまでの学習内容に関する問題を出題することで、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにしています。
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項・既習事項の定着が不十分で、内容別正答率の低かった分野の強化を図るとともに、問題練習を徹底して行うこと、復習のための家庭学習習慣の定着を図る必要があります。 ・実験や観察の結果から、事実や規則性、量的関係を見いだせるように、科学的に考える力を身に付ける必要があります。 ・1年・2年の学習内容の見直しと定着を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事物・材料を教材化し、できるだけ実物を提示して授業を行い、生徒に興味・関心を持たせるような授業を展開します。 ・既習事項の定着を図るために、授業の始めに、復習テストを実施し、既習内容を確認させます。単元の終わりには、問題演習を行ったり課題を出したりします。 ・授業内容や観察・実験の結果について、十分に考える時間や話し合いの場を確保し、考える力や応用力を身に付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 ・夏季休業中の課題として、それまでの学習内容の問題を出題することで、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにしています。 ・3年間の学習のまとめ問題集を用いて、これまでの学習内容を復習する機会をつくっていきます。

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
英語	1年	授業では、生徒が英語を話す時間を多く取れるよう工夫しています。既習事項を生かして教師やペアの生徒と会話をする場面を多く設けています。ペア活動には多くの生徒が積極的に取り組んでおり、英語が得意な生徒が苦手な生徒を助ける場面が多々見られ、生徒同士の学びあいが出ています。しかし、口で言うことができても書くことができない、また耳で聞いたことを繰り返し、会話の応答はできるがそれが文字の表記になると読めない、という生徒が多々います。音と文字が結びついていない生徒が多い現状です。	長期休業明けに行うスプリングコンテストや授業内で行う小テストを利用し、書いたり読めたりする単語を増やしていくよう計画的に指導します。また、一回限りのテストではなく、毎時間帯活動として英単語の発音練習をすることで定着を目指しています。スピーキングでは既習の単語や文法事項が少ないので自分の考えを即興で英語にするまでにはまだ至っておりませんが、段階的に言語活動を取り入れていきます。	語彙量を増やす取り組みとして、毎時間単語の読み練習を行い、口頭でテストを行っているので今後も継続します。文法に関しては定期的に復習を行ったり、英作文をさせることで繰り返し登場させて定着を目指します。英語が苦手な生徒でも難なく取り組める活動を継続することで学習の定着を目指します。スピーキング活動がライティングに結びつけられる授業展開にすることで、バランスよく能力の向上を目指します。また、英語が得意な生徒がより自己表現できる機会を作るため、自分の考えを話す・書く活動も増やします。
	2年	自宅学習を進めにくい「話すこと」と「聞くこと」を大切に授業を展開しています。具体的には、ペアでの音読活動や英会話の機会を多く設けることにより、英語が苦手な生徒でも積極的に授業に参加し、英語を話す機会を設けられるように工夫しています。ペアで英語を勉強していく内に前向きに自宅学習に取り組む生徒が増えた一方、「読むこと」に対する苦手意識の強い生徒が多くいるという現状があります。また、継続して勉強をする習慣がまだ身に付いていないことから、文法の知識が定着していないことも課題として挙げられます。	英語を読む力を向上させるために、授業内で短い英文を読む機会を増やし、まずは長文に対するハードルを下げ、英語を読むことに対する抵抗感を減らします。それに加えて、自宅でも英語を継続して学習できるように、宿題の内容をより細かく提示し、生徒がやるべき課題を明確に示すようにします。現在授業内で実施している「話すこと」や「聞くこと」に関する活動は今後も継続して実施することで、英語4技能の育成を目指します。	単元ごとに課題を提示し、生徒の理解度を確認する機会を設けます。その後単元の基礎的な内容を確認する小テストを実施し、学んだ内容をアウトプットする場を設けることで、学習内容の定着を目指します。また、長期休業明けや定期試験前に実施するスプリングコンテストを通して語彙量を増やすことで、英語における自己表現の幅を広げられるようにします。さらに、授業で学んだ内容を発展的な学習につなげるために、英検の過去問演習の時間も設けることで、英語の力を段階的に伸ばせるようにします。
	3年	スピーキングテストを見据え、授業では出題されたトピックについて1分間話をするスピーキング活動を取り入れています。積極的に会話を続ける生徒もいますが、1文、2文言って話すことをやめてしまう生徒が多い印象です。英語に対する苦手意識が強く感じられる生徒もいて、習熟度の差が表れています。1、2年生の既習事項が定着していないために総合問題や長文読解を苦手とする生徒もいます。	帯活動としてスピーキング活動を継続していくことで積極的に話す意欲を高めていきます。ALT が来校する授業では一人1回はALT と直接会話ができるような授業展開になるよう工夫しています。また3年生は少人数授業をしているので、一人一人に指導できる時間が多く確保できるため、生徒に合わせた指導やアドバイスをしていきます。1、2年生の既習事項を繰り返し授業に取り入れていくことで基礎・基本的な学力は確実に身に付けさせたいと考えています。	語彙量を増やす取り組みとして、ほぼ毎時間単語の読み練習を行い、口頭でテストを行っているので今後も継続します。文法に関しては定期的に復習を行ったり、英作文をさせることで繰り返し登場させて定着を目指します。英語が苦手な生徒でも難なく取り組める活動を継続することで学習の定着を目指します。今後は入試に向けた取り組みも増えます。過去問題などで短いものから、発展学習として長い英文の読み取りも練習していきます。また、英語が得意な生徒がより自己表現できる機会を作るため、自分の考えを話す・書く活動も増やしていく予定です。

授業改善推進プラン（実技教科・全体）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
音楽	<p>今年度は制限解除のため、従来通り歌唱や器楽に取り組むことができています。しかし近年、マスクをつけて歌唱をしていたため、はずすことに抵抗のある生徒が多くいます。自分を表現することの楽しさを実感し、自信をもって歌唱表現できるようになること、また、そのために歌唱の基礎的な技能を身に付けることが課題です。</p> <p>器楽、創作、鑑賞においては、各学年とも設定された題材にしっかりと取り組んでいます。</p> <p>授業においては、ほとんどの生徒に主体的に取り組む姿勢が見られます。今後はさらに、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むことを目指します。</p>	<p>歌唱の授業においては、苦手意識をもつ生徒も歌いやすい雰囲気を作ることを心がけ、安心して声を出せる環境を整えていきます。</p> <p>鑑賞の意見を共有する時や、創作で旋律を作る時、世界の諸民族の音楽や日本の民謡を調べる時など、様々な場面で「きたコン」を活用していきます。</p> <p>生徒が楽しみながら音楽活動ができるよう、何を何のためにするのかをわかりやすく伝え、スモールステップで活動に取り組めるように計画します。</p>	<p>題材の目標を明確にし、生徒が達成感実感できるように練習時間を確保したり、生徒の個人のレベルに合った課題を与えたりするなどし、生徒ができた・わかったと思える授業を行っていきます。</p> <p>また、自分の想いを伝えたり、お互いの考えを共有したりする場面や発表する場面を多く設定し、表現することの楽しさを味わえるよう工夫していきます。</p>
美術	<p>授業への「関心・意欲・態度」は各学年おおむね良好です。</p> <p>1年生は平面作品を得意とする傾向があるものの、立体作品に対する苦手意識が見られます。主な原因は対象物を全体のイメージで把握する力や観察力の不足です。</p> <p>2年生は作品の制作進度に差が見られます。主な原因は①欠席による②アイデアやイメージを生み出すまでの時間がかかる③アイデアやイメージを形や色で表現することに時間がかかることです。</p>	<p>始業・終業のあいさつをしっかり行います。標準の進度がわかるように生徒作品の見本を提示します。模範例のほか個別のタブレット、モニターやスクリーン等を活用し具体例を明確に提示します。アイデアスケッチで様々な方向から観察してイメージを広げるよう指導します。机間指導で個別に支援します。</p>	<p>その時間ごとの活動内容と課題を見えるようにし、意識化させます。作業の遅れについては放課後等の特設時間でフォローします。要点を簡潔に説明し、制作の時間をより確保できるようにします。</p>
保健体育	<p>どの学年においても様々な積極的に授業に取り組む態度が伺えます。また、苦手な種目に対しての向上心をもって、仲間と共に記録や技術を高め合うことができています。しかし、授業内でのケガが多い単元があるため、安全管理と授業環境を整える必要があります。</p> <p>また、自身の体力や技能の課題や課題に対する取組を考え、実行することが課題です。</p>	<p>単元の初めに行う技能の説明を行い、習得までの見通しをもつことができるような指導を行っていきます。参考動画や自身の技能実施の様子をタブレットを使い共有し、技ごとのポイントおさえながら、スモールステップで活動に取り組めるように指導していきます。また、単元ごとに起こりやすい事故やケガなども確認し、身だしなみの確認、安全な授業環境の整備を心がけ活動します。</p>	<p>基本的な技能の習得と体力向上を目指します。体力テストの結果や授業内の活動において、自身の苦手種目・体力を認識する機会を確保します。</p> <p>できなかったことができることや、協力して運動に取り組む楽しさを実感できる授業を行っていきます。</p>

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
技術	<p>授業に対する「主体的に学習に取り組む態度」は、おおむね良好です。一部、授業の準備に課題をかかえる生徒も見られます。技能面では、できる生徒とできない生徒の差があります。知識面では、ノート等の復習ができていない、忘れ物が多い生徒がテストの点に課題を残しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業・終業時間を確認します。 ・授業中、特に作業説明時の私語を禁止します。 ・提出物の期限を守らせませす。 ・工具・機械類の正しい使用法を徹底して、安全な作業を心がけます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への準備の必要性を知らせています。 ・技能的に遅れが目立つ生徒へのフォローの充実(早朝補習等)を図っていきます。 ・授業中における思考・判断・表現の反復(プリント等)を行っていきます。
家庭	<p>授業に対する「主体的に学習に取り組む態度」は概ね良好です。感染対策を十分行い、工夫しながら実習に取り組んでいます。(調理実習を再開します) 生活体験が乏しいため、基本的な内容から学習に取り組んでいます。 実生活でどのように実践させるかが、今後の課題です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業・終業の挨拶を徹底します。 ・道具の正しい使用方法を徹底し、安全な作業を心掛けます。 ・資料を活用し、「考える」授業を取り入れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分の生活と関わりがあることを意識させ、実生活でも生かせるように、題材を工夫します。 ・作業に遅れが目立つ生徒には、授業時間外の作業を行っていきます。 ・基本的な知識の定着は、反復学習(ワークノートの活用)を行っていきます。